

熊本県立水俣高等学校 令和6年度(2024年度)学校評価表(全日制)

1 学校教育目標					
スクール・ミッション、スクール・ポリシーを踏まえ、校訓「自律 敬愛 創造」のもと、知・徳・体の調和がとれ、自ら考え、学び、夢に向かって主体的に行動する力を備えたグローバルリーダーの育成をめざす。					
そのため、全教職員は一体となり、教育者としての使命感と愛情を持って、家庭・地域社会との連携を深めながら、魅力ある学校づくりに努め、本校教育の充実・発展を図る。					
教育スローガン『探究する力を育み、主体的な学びで夢(願い)を実現する生徒の育成』					

2 本年度の重点目標					
(1) 健全な心身の育成					
(2) 確かな学力の育成と進路実現に向けた取組の充実					
(3) SGH事業の効果的な継承とグローバルリーダー、熊本を支える人材の育成					
(4) 保護者や地域社会に信頼される学校づくり					

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	特色ある学校づくり	SGH事業の効果的な継承	・関係機関とのコンソーシアムの中で、連携事業を効果的に継承し、さらに発展させ、グローバルリーダーを育成する。	・「水俣ACTⅠ」の活動を通して、生徒の興味関心にあわせて地域や大学等と連携しながら体系的に実施できる探究的な学びを確立する。 ・「水俣ACTⅡ」における外部機関との連携事業の強化を図る。 ・3年間の体系的で持続可能な「SDGs未来都市」構想の学びを深める。	A	・「水俣ACTⅠ」の体系的なカリキュラムについて、ブラッシュアップを行い、系統的に取り組むことができている。 ・「水俣ACTⅡ」において、外部との連携をより密にすることで、高度な探究活動を行うことができた。また校外での探究活動成果の発表機会を増やすことができた。 ・大学の入学試験等において探究活動の成果や培ったプレゼンテーション技術を生かし、進路実現(進路保障)に繋がった。
	開かれた学校づくり					
		保護者・地域との連携	・PTA役員を中心としたPTA活動や行事等を行う。 ・地域との連携事業を通じた地域貢献及び情報発信を行う。	・各行事について、内容の見直し等を行い、PTA役員を中心に保護者と連携を図り、PTA活動や学校行事等を実施する。 ・「水俣環境アカデミア」、「四者連携事業」をはじめ、地元行政機関や企業等の関係機関と連携する。	A	・各行事において、保護者の参加協力をいただき、行事が盛り上がりとともに、交通整理などPTAが行ったことで、教職員の負担軽減にも繋がった。また会議の内容を事前に周知することで毎月定例の役員会をスムーズに行うことができた。 ・地元企業や行政、各民間団体や高大連携など、充実した「産・官・学」との協働学習に取り組んだ。 ・総合的な探究の時間や商業、工業の課題研究において、様々なプロジェクトが各機関と連携した。さらに小中学校の出前授業や共同学習を実施した。

		学校公開と情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 効果的なPR活動により入学者数を増加させる。 中学生や地域への情報発信力を向上する。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学生の進路学習において、本校の情報が得やすいよう、学校HP内容の整理を行い、SNS等の活用も図りながら情報発信する。 学校行事や学校独自のプロジェクトなどを、中学生や地域に周知できるよう、学校HP等を活用しながら、タイムリーに学校の様子や生徒の活躍を発信する。また、市報の活用のほか、マスメディア等による情報発信を行う。 ブログや行事役割分担を決めることで、多ジャンルの情報を幅広く発信する。 		<ul style="list-style-type: none"> 学校HPのブログページを検索しやすいよう、タグ付けして目的の情報を探しやすいうようにしている。 今年度の教育活動新着情報として、177件（1月15日現在）HPへアップした。 各担当者が学校行事等の様子を学校ホームページ等でタイムリーに発信した。 水俣市報における水俣高校紹介ページで行事やイベントの紹介を行った。雑誌や新聞などでも多く取り上げてもらった。 中学校へ向けて高校生の活動紹介や行事の様子を紹介したチラシを作成し配付した。
業務改革	業務改革の推進	業務改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> 慣例となっている各部署の業務を2項目以上は、整理・改善する。 	<ul style="list-style-type: none"> 報告様式等を簡略、または廃止し、職員の負担を軽減する。 ICT機器等を活用しながら、職員間のコミュニケーション、報告、連絡、相談がしやすい「風通しの良い」職場環境を作る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 職員朝会時の朝会要項及び資料等について、クロームブックを活用し、ペーパーレス化及び負担軽減を行った。また、起案形式の簡略化を図り、形骸化していた業務を改善した。 学校・保護者間連絡システム「すぐーる」を活用し、欠席連絡対応等の負担を軽減した。簡単な報告等は職員間の校内連絡システムIPを活用した。
			<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートにおいて、昨年比3項目以上評価を上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 観点別評価の視点で各教科担当者が授業を改善し、授業評価を上げる。 各項目の評価アップとマイナス項目数を減少させる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート結果昨年比は、生徒：5ポイントマイナスが11項目、保護者：8項目プラス、5ポイントマイナスが3項目、職員：13項目プラス、5ポイントマイナスが5項目であった。職員の評価は全体的には上がったが、今後は保護者と職員の評価を検証し、上昇に繋げることが課題である。
働き方改革	時間外勤務時間の削減		<ul style="list-style-type: none"> 全職員の1ヶ月の在校等平均時間が45時間を超えない。また、1年間の在校等平均時間が360時間を超えない。 	<ul style="list-style-type: none"> 仕事の優先順位や仕事の均等化・平準化を図り、チーム学校として組織で業務にあたり、一人の業務量の負担感軽減に努める。 会議等の内容や時間の縮減に取り組みながら業務改善・効率化を図る。 学校行事等の見直し、縮減を図り、教材研究や事務処理、生徒と向き合う時間等を確保する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 超過時間が多い職員に対して個別面談を行った。また、業務改善や分担等を呼びかけ、毎週水曜日に定時退勤を実践した。職員全体の超過時間平均は昨年度と比較し、約3時間、全体で約7.8%増加した。 部活動関係は学校ホームページ等で周知した。週末の指導や生徒引率に関しては複数顧問制により業務を分担し負担を軽減した。 今年度から2名の外部指導者へ委嘱状を渡し、学校の方針や部活動規定等をきちんと伝えることで、練習時間の短縮や顧問の負担軽減に繋げた。

						<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍以前に実施していたPTA総会欠席者集会を廃止した。生徒の状況や天候等に応じて、オンラインの講演会や式典を実施した。
学力向上	自学力の育成	家庭学習の実態把握と学習意欲の喚起	・家庭学習時間調査を実施し、家庭学習上昇者65%以上を目指す。	・各教科において自学を促すような課題設定、取り組みを行う。 ・百問繚乱による苦手分野分析を活用し、指導方法の工夫改善、苦手分野の自学を促す。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・年度内比較ができなかったが、昨年度と比較すると家庭学習時間が全体で30%減少するなど大きく下落した。 ・百問繚乱はスムーズに導入・運用でき、分析機能による苦手分野分析など活用できた。
	授業力の向上	分かる授業、興味関心を持たせる授業づくり	・公開授業週間ににおける、職員の他教科見学率70%以上を目指す。 ・生徒による授業評価アンケートで70%以上の肯定的評価を達成する。	・各教科ごとに年間の中で研究授業を設定し、職員に広く周知、公開することで授業力向上を図る。 ・公開授業週間や研究授業にあわせてスーパーティーチャーや外部講師等を招聘し、研修を深めることで授業力を向上させる。 ・授業評価を分析、職員へフィードバックし授業改善へつなげる。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業週間、授業交流週間では約82%の職員が授業見学を行い、各々の授業改善等に役立つことができた。 ・数学と英語ではスーパーティーチャーを招聘し、各々の授業改善の一助とすることができた。 ・生徒による授業評価アンケートでは92%以上の肯定的評価を達成することができた。
進路指導・キャリア教育	進路意識の高揚	多様な入試に対応するための指導の充実	・変化する大学入試について研究し、傾向と対策のポイントを職員間で共有し、効果的な指導を実施する。	・入試説明会参加や模擬試験分析会等による情報収集、入試問題の研究を行い、大学入試対策の指導方法について検討する。 ・小論文や面接等の個人指導を組織的に実践する。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校の入試説明会や教育支援関係企業、予備校等が実施する研究会に積極的に参加し、情報収集に努め、指導方法を検討した。教育支援関係企業より講師を招聘し、各学年において模擬試験分析会を実施し、生徒の指導に役立った。小論文については予備校講師による特別講座や本校職員による個人添削を実施した。 ・多様な入試に対応するため、進路情報交換検討会を従来の3年6月から2年3月に移行し早期に実施することで、生徒のよりよい進路実現を図る。またそのための外部講師による職員進路研修を実施する。
	就職希望者への計画的な取組	・就職内定100%達成に向けた取組を充実させる。	・県内の魅力ある企業の情報発信と現場見学を充実させ、就職希望者の目標を早期に具体化させる。また、ICTを利用して保護者も含めて就職に関する情報共有を行う。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・担任から生徒情報を聞き取り、進路指導部としても生徒と直接話をすることで、志望理由を明確にさせ、職業意識を高く持たせた。一般企業の一次募集では受験者42名、合格者40名、合格率95%だった。不合格になった生徒2名も二次募集で内定をもらっている。公務員は4名受験し、3名が合格した。 ・オンライン求人票閲覧システム「Handy」は生徒の利用も活発だ 	

						った。保護者もタブレットを利用して閲覧できることからスマートな情報共有が可能になった。また、求人のデータをCSVで出力できることから年度ごとに職種や基本給、勤務地の集計が簡単にでき、求人の分析に役立てた。
生徒指導	社会規範意識の醸成	正しい社会規範意識と他者尊重の意識を醸成	<ul style="list-style-type: none"> 行動や服装を自ら判断し、選択できるようにする。 マナータイムにおける再チェック数が回を経るごとに減るようにする。 SNSや情報端末の正しい利用方法を習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> 全職員が共通理解を持ってマナータイム時に限らず、日頃の学校生活の中で指導する。 校則の見直しを生徒、保護者とともに考え、当事者意識を培い、遵守する態度を養う。 年6回のマナータイムを実施し、時宜にかなった講話をを行う。また、全校集会時の諸連絡をとおして生徒指導部から発信する。マナーとして気づき考え方行動する力を育む。 講話等を通した情報モラル教育を行う。職員で情報共有を行い、常に新しい知識で対応できるようにする。通年で情報モラル教育を行う。時代に即した合理的な活用の仕方を職員間で検討していく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 校則の全職員の共通理解においては、その都度確認する場面もあり、年度当初に着実に共通認識をはかるべきであった。日頃の学校生活においても気づいた職員がその場で指導に取り組む雰囲気をより構築していきたい。 本年度も校則に関するアンケートも保護者、生徒とともに実施し、生徒会を中心に協議することができ、当事者意識の醸成にも繋がった。 「みなまたマナータイム」は予定通り行うことができた。規則やマナーは理解できているようだが、今後自己管理能力を身につけていく必要がある。 情報モラル教育は、警察の方にも講話をしていただき、効果はあった。次年度も行っていきたい。
	基本的生活習慣の確立	基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 5S活動を行う。 遅刻者数を削減する。遅刻の常態化をなくす。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導部が中心となって登校指導を行い、遅刻者の情報を管理し、担任と共有し、繰り返さないように個別対応する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 掃除には職員、生徒ともに精力的に取り組むことができた。 遅刻者のチェックをこまめに行うことで、遅刻者の減少につながった。学年での情報共有もできていた。
	防犯及び交通安全意識の高揚	防犯意識の向上と安全運転の励行	<ul style="list-style-type: none"> 二重ロック率99%以上および100%達成率50%にする。 自転車乗車中のスマートフォンの使用がないように指導する。 交通安全の呼びかけ・啓発を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 登校指導の中で、一旦停止の呼びかけや一列励行の呼びかけを行う。 交通委員による二重ロック調査を週3回行い、結果を全職員で共有、公表し、未実施者には個別対応を行う。 水俣警察署と協働し、交通講話や啓発プリントを配布し意識を高めると共に、事故時の適切な対応方法についても習得させる。 次年度から自転車通学生のヘルメット着用 	A	<ul style="list-style-type: none"> 交通委員や職員による啓発活動を不定期で行い、規範意識の醸成に繋がった。 週3回の二重ロックの検査に加え、警察署との協同で防犯意識の向上に繋がった。 二重ロック率は、高い率を維持している。 年度当初に事故時の対応の仕方を指導した。適切な対応ができた。 交通講話においても警察の方に講話をしていただき、効果があった。 自転車通学生のヘルメット着用は、3学期から義務化とし、着用率は大幅にあがった。 定期的に原付通学生対象の安全教

			<p>義務化に向けて、具体的に今年度から動き出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 原付通学生対象の安全教育を月に1回実施し、事故未然防止につなげる。 		育を行い、原付通学生の事故はなかった。
	自主性、社会性の育成	自主・自立の精神の涵養と生徒会活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 全校生徒に学校行事及び生徒会行事に主体的に参加させる。 <ul style="list-style-type: none"> 生徒会役員と顧問とのランチミーティングを開き、生徒会役員及び庶務の意思の疎通や共通理解を密にし、絆を深めるとともに、学校行事や校則についての議論などを通じて生徒の自主性、自立性を養う。 学校行事後にはアンケートを実施し、全生徒、全職員の意見を聞き、柔軟に変更をし、より実りが多い学校行事にする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会役員と顧問とのランチミーティングを開き、生徒会役員及び庶務から多くのアイディアが出てきており、自主的に主体性をもって取り組んだ。また、議論にどまらず、実行に移すことができた。 アンケートをとり、回答から部内、生徒会内で協議を行い、改善点を整理することができた。
人権教育の推進	人権教育推進体制の充実と人権意識の深化	校内の人権教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 学習機会の定期的な設定による生徒、職員の人権感覚を醸成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 同和問題に対しての職員研修を実施する。 人権講演会、人権LHＲを実施する。 各種校外研修会への参加を通じて職員の人権感覚の醸成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育主任研修の内容を踏まえ、様々な人権課題やハラスメント等をテーマにした職員を対象の研修を実施した。 「自己責任社会を超えて」というテーマで有識者を招いて人権講演会を開催した。 性的指向・性自認等や同和問題、水俣病に関する人権等についてのリモート研修や校外研修会に積極的に参加した。
	人権教育推進体制の充実と人権意識の深化 「命を大切にする心」を育む指導の推進	水俣病等に関する人権問題の学習	<ul style="list-style-type: none"> 水俣病をめぐる人権問題について、各自の意見の発信力を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間や校外との連携を行いながら、水俣病等の人権問題学習を通じて、優れた人権感覚の醸成を目指す。 ポスターセッション等の発表準備を通じて各自の考えを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 1学年の総探の時間では、水俣病の歴史や現状についての学習を行い、被害、加害の両方の立場に立って学習するなど、人権感覚を深める取組を行った。 2学年の総探の時間では、水銀をテーマにしたグループを作成し、国立水俣病総合研究センターと連携して水銀に関する水俣の取組や水銀条約についての調べ学習とポスターセッションを行った。
		「命」や「生きること」の考察を通じた自己肯定感と他者を思いやる心	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員による全ての教育場面での人権を意識した取組を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 全ての教育活動を通じて、人権教育を推進するための職員研修を実施し、生徒の人権教育につなげる。 朝読書等で活用できるよう、心を守る図書についての紹介を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の取組を共有したり、成果をまとめたりといった活動は不十分だったが、各教科、科目における人権目標を定め、総合的な人権感覚を育てる取組を行うことができた。 図書館と連携してストレス緩和の書籍の特設コーナーを作成した

		の育成				り、人権標語を全生徒が作成したりすることで、「命」や「生きること」、「他者への思いやり」などについて考えることにつなげた。
いじめの防止等	いじめの未然防止	いじめを許さない集団の育成	・生徒主体の取組の推進による情報モラル教育の通年に渡る取組を実施する。	・生徒のいじめに対する認識の感度を向上させるために以下の取組を実施する。 ・「いじめを許さない宣言文」や標語等の作成を行なう。 ・各種アンケートや面談週間、校内相談体制の積極的な案内を行なう。	A	・「いじめを許さない宣言文」を生徒総会で紹介し、各教室に掲示した。 ・図書館と連携し、いじめや差別問題に関する書籍の特設コーナーを作成し、生徒に周知した。 ・校内、校外の相談窓口に関する携行用案内カードを作成し、全校生徒に周知、配付した。 ・1学年を対象に、SOSの出し方に関する授業を行い、様々な困難やストレスへの対処法について学ぶ機会を設けた。
	いじめの発見と適切な対応	校内委員会を中心とした全職員での取組	・スクールサイン（いじめ匿名通報サイト等）の積極的周知と、いじめ事案に対する組織的認知と迅速な対応を行う。	・面談や各種アンケート等を実施し、いじめの早期発見と速やかな事実の確認にあたる。 ・スクールサインの積極的な周知 ・学期に1回以上のいじめ防止組織会議の開催。 ・被害生徒を守り、加害生徒にも適切に対応する。	A	・学校独自のいじめに関するアンケートを毎学期実施し、面談週間中には、各担任がその情報を基に細やかな面談を行った。 ・スクールサインのサイトにQRコードからアクセスできる携行用力ードを作成し、全校生徒に周知、配付した。 ・学期毎に外部専門家を招き、いじめ防止等検討委員会を開催した。 ・いじめの可能性があるトラブルについては、生徒部職員に加え、いじめ情報集約担当も聞き取りや会議に参加し、慎重な対応を行った。
地域連携（コミュニティ・スクールなど）	防災教育の充実	防災教育の充実	・主体的に行動し、自分の命を守る。	・防災訓練を2回実施し、災害への対応力を高める。 ・避難経路の確認など自助の意識を育てる。 ・クラス掲示で防災教育の情報提供を行う。	A	・新年度すぐに、避難訓練を実施し、避難経路の確認や災害発生時の対応について考える機会を作り、自助の意識を育んだ。 ・シェイクアウト訓練や啓発資料を通して、防災に関する技能や知識を体験・学習し、日頃の防災への備えを促進した。
	地域と連携した災害時の連携体制の確立	防災訓練への参加	・水俣市や地域住人と連携し災害に備える。	・水俣市や地域住人との合同訓練に参加し、地域との連携や防災意識を高めるとともに、公助や自助の意義について学ぶ。	A	・水俣市防災フェスタに参加し、各関係機関による各種訓練や展示、防災体験コーナーを通じて、楽しみながら防災に関する意識や知識を高めた。 ・防災避難訓練時に職員、生徒全員が防災DVD視聴し、防災についての知識を高めた。
特別支援教育	特別支援教育の理解と推進	教職員の専門性の向上	・合理的配慮を要する生徒に対する知識を習得する。	・障がい者手帳の取得や、障がい者の雇用制度と支援内容に関する職員研修を行う。	A	・8月の職員研修で、特別支援教育スーパー・ティーチャーによる障がい者雇用制度と支援内容をテーマとした研修計画していたが、台風のため中止となり、別日に設定できなかった。

		特別な支援を必要とする生徒の把握と適切な対応	<ul style="list-style-type: none"> 合理的な配慮をする生徒の把握と、SC、SSWの効果的な活用を行う。 「個別の教育支援計画」の作成と活用・引継ぎを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 新入生保護者に対して「保護者の気付きアンケート」を実施し、保健調査とともに生徒情報を集約し、生徒理解研修で職員に情報共有を行う。 個別の教育支援計画を引き継いだ新入生は1学期に全員SCの面談を行う。 各学期に支援対象生徒に関する教科担当者会を開き、支援内容の振り返りを行い、次学期の目標を定める。個別の教育支援計画は、進路先に基本的に全員引継ぎをする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 新入生の「保護者の気付きアンケート」を実施し、保健調査の内容と合わせて、4月末の生徒理解研修で関係職員に情報周知した。また、保護者の記載内容をもとに、高校で個別の教育支援計画を作成するか保護者に確認し、同意を得た生徒の支援計画作成をした。 入学式前に支援対象生徒の保護者と関係職員で面談を行い、職員研修で情報周知を行った。保護者の了承を得て、支援対象生徒とSCの面談を行った。 支援対象生徒について教科担当者会を実施し、個別の指導計画の評価を行った。 3年生の進路先へ引継ぎの同意が得られたのは、6人中2人だった。進路先へ引継ぎをしない生徒の文書は、保護者に引き継ぐ。
環境・安全教育の推進	「SDGs未来都市」の一員としての自覚に基づいた環境教育の推進	持続可能な環境活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体性を育む取り組みを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 委員会メンバーが中心となって、学校版環境ISO宣言項目に基づいた活動に取り組む。エコスクールDayを毎月実施し、環境への意識や行動について自分自身で振り返り、改善する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「エコスクールDay」を毎月実施し、クラスごとの取り組み状況を確認した。毎月行うことで、マイバッグやマイボトルの持参やゴミの減量を意識することに繋がっている。生徒たちの目標達成率は高く、ほとんどのクラスで90%に達している。
			<ul style="list-style-type: none"> 環境美化委員会の活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域や企業と連携したSDGsについて生徒職員一丸となって取り組み、その成果を行事等で発表する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 企業と連携したコンタクトレンズの空ケース回収などを行っている。これらの活動について文化祭で発表し、生徒たちの意識を高めることができた。
健康で安全な学校生活の推進	健康な学校生活の推進		<ul style="list-style-type: none"> 心身の健康問題を早期に発見し、対応する。 感染症予防のための指導を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察の実施や関係職員間での情報共有を密にする。また必要に応じて個別や集団での指導を行う。 手洗いやうがい、換気の必要性について再確認し継続した指導を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察の実施方法を改善したことにより、関係職員間での情報共有を迅速かつ密に行うことができた。 感染症予防のため、適宜手洗いやうがい、換気について指導を行った。また、換気については、生徒保健委員会活動としても取り組んだ。

		安全な学校生活の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・職員、生徒の安全意識の向上と、校内における事故リスクを軽減させる。 ・安全点検(年2回)を実施し、学校全体の安全への配慮を徹底する。 ・環境衛生の調整を図り、健康的な学習環境の維持管理を充実させる。 ・体育や部活動、学校行事において水分補給の指示を行い、熱中症のリスクを減らす。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・8月に一度実施し、2回目は2月に実施予定である。安全点検を行ったことで、危険箇所の共有、改善に繋げることができた。 ・環境衛生については、(水質・空気、ダニ検査) 健康的な学習環境の維持管理に努めた。 ・熱中症対策として、水分補給や規則正しい生活習慣について適宜指導を行った。また、部活動においては、適切な活動時間も含め、運動部活動顧問を中心に注意喚起を行った。
--	--	------------	---	---	--

4 学校関係者評価

【感想・意見等】

- 地元企業や水俣市等といろんな「地域・学校間連携」に取り組まれているので関心している。
- 総合的な探究学習や地域との協働学習に対して先生方も研修されており、医療系連携事業（四者連携事業）では、医療系の具体的な進路先のイメージに繋がっており良い取組である。
- 生徒には「水俣市防災フェスタ」のボランティアのスタッフとしてお世話になっており、生徒が頑張っていると地域の方々から講評をいただいている。また、「防災士」の資格に高校生もチャレンジしてもらいたい。
- 自転車の交通安全マナーの高揚に繋げてもらいたい。また、毎年4月に水俣高校の正門で交通安全キャンペーンを実施しているためご協力をお願いしたい。
- 地元企業との連携事業等において、地元企業への就職では、昨年度が10数%であったが、今年度は20%を超えており、学校と企業との連携事業等の成果が表われている。
- 半導体やプログラミング等の情報系に力を尽くされ頑張っておられる。また、地域連携コミュニティスクールの項目では、防災に関することだけであったため、他にも連携されていることがあるのではないか。
- スタンフォード大学との連携事業の取組みにおいて、学校内でどのように生かして行かれるのか検討をお願いした。
- 5月に実施された体育大会を見学したが、みんな一生懸命に短距離走を最後まで走っている姿に感動した。
- 中学校のホームページに水俣高校（HP）のリンクを貼っており、アクセス件数は1,000件を超えている。
- 水俣市・水俣環アカデミア等、いろんな事業でお世話になっている。また、スタンフォード大学との連携事業では、市民向けにどのような効果があったのか伝えるための発表（プレゼン）の場を考えている。
- 息子が大学受験をしており、水俣高校で良かったと言っている。また、受験会場に行っても、他校生と何ら変わりなく、自分がしっかりしていればいいだけなのでと言っていた。

5 総合評価

(1) 学校評価アンケート結果

【各項目昨年比】※「よくあてはまる」「やや当てはまる」の割合

- ① 生徒 (25項目) : 〇項目プラス、25項目マイナス
- ② 保護者 (26項目) : 8項目プラス、16項目マイナス、 同比率2項目
- ③ 職員 (27項目) : 8項目プラス、19項目マイナス

【昨年と比較して、特に差が大きかった項目（単位：%）】

① 生徒

- ・「本校では教え方が工夫されていて、授業が分かりやすい」 (-8.7)
- ・「本校は各科・コースの特長を活かすなど、特色ある学校づくりを行っている」 (-6.5)
- ・「本校の生徒会活動は活発である」 (-12.4)
- ・「本校は掃除が行き届き、教育環境は整備されている」 (-6.7)

② 保護者

- ・「自分の子どもは家庭学習に取り組み、習慣化している。」 (-6.4)
- ・「本校は生徒の進路目標達成のためにしっかりと指導を行っている。」 (+7.6)
- ・「本校では進路選択のための情報がきめ細かく生徒、保護者に提供されている。」 (+6.9)

- ・「本校の施設、設備は整備され、安心して学校生活を送ることができる。」(-8.8)

③教職員

- ・「自分の子どもは家庭学習に取り組み、習慣化している」(-15.1)
- ・「自分の子どもは読書の習慣が身についている。」(+11.5)
- ・「本校では進路選択のための情報がきめ細かく生徒、保護者に提供されている。」(+10.0)
- ・「本校では基本的生活習慣や社会のルール、マナーをしっかり指導している。」(-12.0)

(2) 本年度の重点目標について

①健全な心身の育成

コロナ禍以前の行事や取組ができるようになり、生徒が生き生きと活動できる場が増加した。体育大会や文化祭等の行事を通して生徒会を中心に生徒たちの精神面の成長が見られた。外部講師による薬物乱用防止教室や人権教育講演会、SNSマナー講座や闇バイト講話等を開催し、生徒の意識の高揚を図った。全職員が定期的に研修を行い、生徒支援の視点で生徒に接することで、生徒の心身のストレスや困り感の解消に取り組んだ。スクールサインへの投稿やSNS等の対策や未然防止に努めた。また、スクールカウンセラーやいじめ防止対策委員会等を活用しながら、情報集約担当や人権教育主任を中心に生徒のSOSに組織で対応する体制ができた。

②確かな学力の育成と進路実現に向けた取組の充実

各教科で観点別評価を作成し、生徒の主体的な学びに繋がっている。公開授業や研究授業、スーパーティーチャーの活用等を通して教科指導力のスキルアップが図られた。また、学習アプリ「Classi」を活用しながら課題等を工夫し学力向上に取り組んだ。進路実現については、就職関係では10月には殆どの生徒が内定を頂いたが、県内就職率が47.7%程度であり、地元定着が今後の課題である。進学に関しては、総合型・学校推薦型選抜の受験者が増えていることから、3年間を見通した教科指導や受験対策について進路指導部と各学年・各教科が連携し、組織全体で検討していく必要がある。

③SGH事業の効果的な継承とグローバルリーダーの育成

総合的な探究の時間（SGH事業からの継承について）は、地域の研究機関と協力関係を築き、「みなまたMOYAIST」を目標に掲げ、グローバルリーダーを育成している。特に今年度は、「総合的な探究の時間」の活動をはじめ、「産官学との連携」・「地域との協働」学習において、①四者連携事業「水俣市・水俣市総合医療センター・熊本保健科学大・水俣高校」との包括連携に関する協定事業、②水俣環境アカデミアや大学等との連携事業、③水俣市・国立水俣病総合研究センターとの環境教育推進事業、④水俣市・（株）アスカインデックスとの半導体関連人材育成事業、⑤水俣市・スタンフォード大学との定期的な交流活動におけるグローバル人材育成事業、⑥建設DX推進プロジェクト事業、くまもと県南フードバー推進協議会と連携した商品開発等、様々な探究的な学びに取り組むことができた。

④保護者や地域社会に信頼される学校づくり

昨年度から学校保護者連絡システム「すぐーる」が導入され、欠席連絡等がスムーズになり、保護者だけでなく職員の負担も軽減された。また、学校ホームページや学年通信等を通して学校の様子をタイムリーに伝えることができた。また、PTA活動には生徒や職員も協力する体制ができており、水俣市唯一の高校として信頼関係を築いている。さらに、総合的な探究活動の時間を利用しながら、校外での活動を積極的に実施しながら地域に貢献する取組みを行った。特に今年度は半導体関連企業との連携をとおして、工業科だけでなく、商業科や普通科の生徒にも体験学習を実施した。

6 次年度への課題・改善方策

(1) 学校経営

半導体関連企業や医療機関、及び大学や行政等と連携した本校独自の取組を行い、進学や就職の実績向上に繋げて行く予定である。今後は、このような連携事業を継続させながら質の向上を図り、生徒募集につなげ、将来地元に還元できる地域の担い手不足が課題である。また、生徒の体験学習や海外交流等の機会をいかに増やしていくか、さらに、参加費や旅費等の予算をどのように確保していくかなど、学校だけでなく関係機関、同窓会やPTA等とも連携しながら検討していく必要がある。

(2) 授業改善と学力向上

学校評価アンケートの授業に関する項目においては、生徒の評価が昨年より減少しており、「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が課題であり、観点別評価のさらなる充実が必要である。また、ICT等を活用しながら、生徒個人の主体的で深い学びができるように学習環境を整えていくことが大切である。

(3) キャリア教育の充実

普通科を中心とした進学実績、他学科を中心とした就職実績（特に県内への就職率）を向上させるために、早い段階での進路目標の設定を行い、3年間を見通した大学受験や就職試験に対応できる学力の

定着、及びキャリア教育を充実させる。また、インターンシップ等の体験活動の充実を図り、職業観・勤労観を育み、生徒一人一人が目的意識を持って日々の活動に取り組む態度を育成する。

(4) 生徒指導の充実

日々のホームルーム、交通講話等を通して登下校のルールやマナーの指導を徹底し、事故防止に繋げる。また、自転車ヘルメットの着用義務など新たな課題に対応する。生徒のsosの早期発見のために、学期ごとの面談週間、いじめアンケート、スクールカウンセラーの活用等を充実させ生徒や保護者に寄り添った対応を行う。従来の校内の規定等を見直し、時代の流れに沿って改善を図る。

(5) SGH継承と地域連携の推進

「総合的な探究の時間」や「地域との協働学習」の活動や専門学科の「課題研究」の探究活動の取組を検証し、SDGsの目標のもと、国立研究施設や自治体と連携・協働した環境教育の更なる推進、及び海外の大学等との交流を通して、グローバルリーダーの育成を目指す。また、行政や関係機関、及び半導体関連企業や連携、医療機関との連携を強化し、学校の新しい魅力を発信する。